

令和7年度指定管理業務に関する事業報告書（デイ）

施設名 衣笠デイサービスセンター

1 施設の管理運営

- ・介護保険法に基づく通所介護の実施
- ・京都市総合事業（介護予防・日常生活総合事業）による介護予防型デイサービスの実施

2 事業実施内容

- （１）指定管理業務（本来業務：老人デイサービスセンター）
- ・通所介護・介護予防通所介護事業実施とこれに伴うサービス提供（食時・入浴・機能訓練・レクリエーション・送迎・相談業務などの提供）
 - ・サービスの向上の取り組みのためのユーザアンケートの実施や情報の公表、第三者評価受診。
 - ・グループレク・個別レク、個別ニーズへの配慮等、利用者満足度の向上を図る
 - ・中・大学生、看護学校、支援学校の実習受入れ。ボランティアの受入れ。
 - ・生活困窮者自立支援法に係るチャレンジ就労体験事業の受け入れ。
 - ・地域貢献事業として、学区健康すこやか教室への職員派遣、包括圏域認知症カフェの企画運営、職員派遣
 - ・地域交流会の実施、地域の児童養護施設の地域交流会実施の協力参加

- （２）指定管理業務（企画提案業務：指定管理者が提案し、施設内で実施している業務。例：配食サービス）
- 居宅介護支援
- ・月～土曜日

自主事業の実施状況は、以下の通り。

3 サービス提供状況

管理者：1名 生活相談員：2名 看護師兼機能訓練指導員：6名
介護職員：8名 調理員：4名 介護支援専門員：4名 運転手：3名

再委託の実施状況（協定書に明記のない再委託業務）は、以下の通り。（例：給食調理業務）
なし

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会においては、本会経理規程により、100万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、100万円未満の委託業務に関しては、随意契約としています。一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っています。

5 施設の利用状況(本来業務に係る施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など)

(1)延べ利用者数

①令和7年度実績値	7,009	人
②令和8年度目標値	7,500	人

(2)実利用者数

①令和7年度実績値	918	件
②令和8年度目標値	930	件

(3) 収支実績

ア 本来業務(老人デイサービスセンター)

介護保険収入	65,553,247
利用料収入	5,232,212
委託料収入	0
補助金収入	756,864
寄付金収入	0
雑収入	409,166
その他	1,940,659
収入計	73,892,148

令和7年度収入状況及び支出の状況 (単位:円)

人件費	79,792,252
事業費	14,323,114
委託費	0
小額修繕費	0
その他	11,919,752
支出計	106,035,118

イ 企画提案業務1(居宅介護支援)

介護保険収入	23,863,356
利用料収入	
委託料収入	
補助金収入	42,000
雑収入	
その他	1,818
収入計	23,907,174

令和7年度収入状況及び支出の状況 (単位:円)

人件費	19,725,569
事業費	1,966
委託費	
その他	1,343,007
支出計	21,070,542

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

- ・法人統一満足度アンケートの実施
令和7年10月から配布し、集約結果を利用者介護者に返しています。
- ・利用者への聞き取りを実施するため、会話の中から利用者の思い、満足度を聞き取るようにしています。

(2) 利用者満足度把握の結果

<主な項目>

送迎・・・	満足：83%	ほぼ満足：17%	不満：0%	やや不満：0%	無記入：0%
入浴・・・	満足：62%	ほぼ満足：30%	不満：0%	やや不満：2%	無記入：6%
食事・・・	満足：83%	ほぼ満足：15%	不満：0%	やや不満：0%	無記入：2%
効果・・・	満足：53%	ほぼ満足：28%	不満：0%	やや不満：2%	無記入：17%
満足度・・・	満足：68%	ほぼ満足：19%	不満：0%	やや不満：0%	無記入：13%

(3) 意見等への主な対応状況

アンケートの回答集計結果については、サービス向上検討委員会にて検討協議し今後のサービス向上につなげている。アンケート結果とサービス向への取り組みについては機関誌と共に配布しています。

7 その他特記事項

(1)

(2)

8 評価（指定管理者自己評価）

職員の人材不足および高齢化という課題に対し、強固な協力体制を構築することで離職を防ぎ、前年度を上回る稼働率の改善を達成した。また、徹底した安全管理により、大きな事故や重大な苦情ゼロでの運営を継続している。

利用者アンケートにおいても満足度の向上が顕著に表れており、さらに「地域に開かれた施設」を目指した取り組みも実を結んでいる。一例として、五山送り火に合わせた施設開放イベントでは、あいにくの大雨に見舞われながらも30名以上の地域住民の参加があり、地域コミュニティの交流拠点としての役割を十分に果たすことができたと評価している。